

平成28年1月1日

発行所 瀬戸市西長根町 10 番地 瀬戸旭医師会 84 1155 発行人 黒江幸四郎  
URL <http://www.setoasahi.com> E-mail [isikai@setoasahi.com](mailto:isikai@setoasahi.com)

## 日本の誇り、日本人としての誇り

独立行政法人労働者健康福祉機構 旭労災病院 院長 木村玄次郎  
(瀬戸旭医師会 参与)

和食が世界遺産に登録されるなど、日本の文化や日本人の人間性が国際的に高く評価されている。海外からの観光客が急増し、日本の良さや特異性に触れるにつれ、益々日本と日本人に対する評価が高まっている。東京オリンピックの競技場建設やエンブレム選考過程での遅れに対して、海外からは逆に、いつも綿密に計画してきた日本で、なぜ、このような事態になったのか不思議がられているぐらいである。平和ボケとも形容される日本人の対立を好まない気質、仲間意識を重視する行動倫理も漸く理解されるようになりつつある。これまでは何となく奇異に見られていた日本人が、寧ろ崇高な心を持ち合わせた人種として国際的にも尊敬されるようになりつつあると感じている。

このように日本と日本人について理解が世界的に進む中で昨年、私が最もがっかりしたのは、平和憲法の解釈変更と云う名の破棄である。確かに、一昔前は、武力が紛争解決の有効な手段であったかもしれない。しかし、今では武力で解決できることは、寧ろ限定的でしかないことは明らかであろう。そのような状況の中で、かつ漸く日本人の崇高さや平和主義について国際的な理解が進む中で、なぜ今、日本国としての宝を捨て平和憲法を破棄する必要があるのだろうか。繰り返しになるが、漸く世界が、そして近隣諸国が、平和国家として武器や戦闘機を作らない国として認めるようになっている今、なぜなのかと思う。米国から押しつけられ、日本で育った平和憲法だからこそ、日本がお手本を示し、米国を始め世界へ逆輸出する位の気概で望むべきではないか。常に、武力で解決しようとする姿勢を止めさせる立場を強く打ち出すべきである。フランスでの同時テロ事件を見ても武力で解決する方法では、逆にしか働いていないことは明らかであろう。益々軍事力を増強し、競い合う事態は日本から止め、世界にも理解させるべきである。先進国は自ら武力の行使を止め、徐々に軍事力を縮小する必要がある。

平和憲法についての議論で心強かったのは、法曹界や大学教授である。大半の専門家が声を大にして、解釈変更は憲法違反に当たるとの声明を発し、国会周辺では連日、大掛かりなデモが行われた。学問の府は健全と感じ、心強い限りであった。それに対して、新聞やテレビなどの報道は統制されていると感じたのは私だけだろうか。選挙でも開票前から当選確実が伝えられるのは、逆に報道が誘導しているようにさえ感じられる。一方、政府御用達の大学人も少なくない。特に経済政策については、はっきりと次世代へ提言できている研究者は皆無ではないか。殆どが、政府の施策を擁護している。自信のある研究者なら自分の専門分野については常に社会に対して提言する義務があると思う。これまでの経済施策上の最大の失敗が、年功序列を廃止したことと私は思う。生活設計が出来なくなり、将来の安定や夢が保証されなくなってしまった。特に、若者にとっての safety net が破壊されてしまったことは、返す返す無念に思う。日本的な成熟した社会保証システムを失

ってしまったことは、取り返せない失政である。小泉政権のときであるが、経済学者からは何の反対もなかったと記憶している。

その点、医療は社会学であり、常に社会と共に歩んでいることを誇りに思っている。患者さんの命を守り、地域医療に日々貢献している。ところが、医療の現場も困難な状況にある。高齢化が進む中で、高齢者医療に掛かる医療費が大きく、それを若者で支え切れない構図になっているからである。社会保障全体にも言える現象であり、公平な分配原理を作成できない状況にある。それに加えて、医療が高度となり、益々高額化している背景もある。どこまでの医療を保険でカバーできるのか、最新の高額医療はカバーできないのか、これについては医療界だけでは決定できない重たい問題となっている。当然、医師なら誰にでも最高の医療を提供したいところではあるが、社会資本にも限界がある。だからといって、皆保険システムを破棄すれば、年功序列に次ぐ、我が国第2の safety net を失うことになり、それだけは避けたいところである。加えて、TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）が原則合意されたことにより米国の医療保険が導入されれば、我が国の皆保健制度がどうなるのか見えてこない。正に医療は社会学そのものである。そろそろ医療界がリーダーシップを発揮し、法曹界や経済界などを含め国民全体で医療制度のあり方について議論し早急に結論を出す必要がある。

腕の良い名医、患者さんの気持ちを理解出来る良医に加え、社会から信頼され社会に貢献できる医師（善医）の必要性が益々高まっている。いずれにせよ、医師として、そして日本人として誇りを持って生きて行きたいと思う。それにしても、医師として社会から信頼され社会に貢献できるリーダーの登場が望まれる。